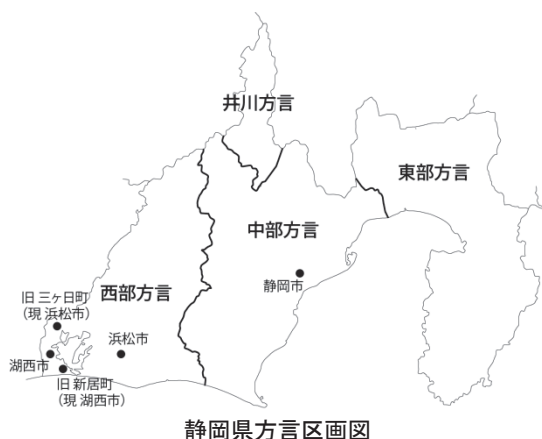


静岡県湖西市方言



静岡県方言区画図

【静岡県の方言区画】静岡県は、江戸・東京と上方・近畿の中間に位置しており、県内の東西を東海道が横断する、交通の要所となっている。言語の面でも東日本の特徴と西日本の特徴が接触する地域であり、方言の東西境界線が複数通る「西部系方言から東部系方言への過渡的な地域」（中田 2002）と位置づけられる。

中條（1983）、中田（2002）によれば、静岡県方言は東部方言、中部方言、西部方言、井川方言の4つに区分される。東部方言・中部方言・西部方言の異なりは、上記の東西差を持つ項目の差異によって区分される。動詞否定形、動詞継続形、一段型動詞（ここでは「起きる」）の命令形を例にとると、それぞれの方言では以下の形式が用いられる。

	動詞否定形	動詞継続形	一段型動詞 命令形
語例	行く	降る	起きる
東部	行カナイ	降ッテル	起キロ
中部	行カナイ	降ッテル	起キヨ
西部	行カン	降ッテル 降ットル	起キヨ
井川	行カノー	降ッテル	起キヨ

その他の特徴として、東部方言には意志・推量のべー、連母音融合があり、西関東方言と連続している。中部方言の特徴としては意志のズ（行カズヨ）、過去のケ（行ッケ、赤イッケ）などが挙げられる。

井川方言は中部東海地方で唯一の無アクセント地域として「言語の島」をなしている点が特徴的であり、音韻・文法の面でも他の方言との異なりがある。

【湖西市方言について】湖西市は静岡県の最も西に位置し、湖西市方言は方言区画上、西部方言に属する。ただし、浜名湖よりも西の地域の、湖西市、旧浜名郡新居町（現湖西市新居町）、旧引佐郡三ヶ日町（現浜松市北区三ヶ日町）には、動詞継続形「トル」の使用や動詞命令形「～（リ）ン」（「書キン」、「食ベリン」）など、愛知県東三河方言と連続する特徴が見られる。

【表記について】湖西市・新居町・三ヶ日町の方言において伝統的に、ガ行子音は語頭・語中ともに[h]で発音されるとされるが、本稿では「ガギグゲゴ」で示す。

【調査概要】本稿は筆者（1985（昭和60）年生まれ）の内省、および、当地生え抜きの女性（1937（昭和12）年生まれ）への聞き取り調査によってまとめた。聞き取り調査によって得た語形については、筆者の内省と異なりがあるところもあったが、なるべく該当する語形を広く掲げ、それぞれの差異については本稿の中で適宜言及する。

挙例について、特に注記のないものは筆者の調査で得た例文、または筆者の内省である。なお、山口（1994、1995）の例文（山口幸洋氏の内省。山口氏は新居町出身、1936（昭和11）年生）で、湖西市方言でも用いられると判断したものも参照している。ただし、読みやすさのため私に分かち書きを行った。また、静岡県の昔話について、他の市町村の話であっても、同じ現象が湖西市方言でも確認されるものについては、同様に参照した。昔話の表記は出典に拠る。

静岡県湖西市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カキン	ミヨ	コイ	セヨ
			ミロ	キン	シロ
			ミン	キリン	シン
			ミリン	コリン	シリン
	禁止	カクナ	ミルナ	クルナ	スルナ
	意志	カコー	ミヨー	コヨー	シヨー
勧誘	カカマイ カコー	ミマイ	コマイ	シマイ	
		ミヨー	コヨー	シヨー	
推量	カクラ	ミルラ	クルラ	スルラ	
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カキヤ カケバ カイタラ	ミリヤ	クリヤ	スリヤ
ミレバ			クレバ	スレバ	
ミタラ			キタラ	シタラ	
派 生 類	否定	カカン	ミン	コン	セン シン
	取り立て 否定	カキヤセン	ミヤセン	キヤセン	シヤセン
			ミリヤセン	クリヤセン	
	丁寧	カキマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカス カカセル	ミサス	コサス	サス
			ミサセル	コサセル	サセル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カケル カケレル	ミレル	コレル	《デキル》
	尊敬	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
			《ミエル》	《ナサル》	
継続	カイトル カイトル	ミテル	キテル	シテル	
		ミトル	キトル	シトル	
希望	カキタイ	ミタイ	キタイ	シタイ	
のだ	カクダ	ミルダ	クルダ	スルダ	

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak·u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik·uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ kag·u	カイ-ダ	gをiにする。 -タが-ダになる。
s	出す das·u	ダシ-タ ダイ-タ	若年層は基幹イ段形を使用する。 高年層はsをiにする。
t/c	立つ tac·u	タッ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。 -タが-ダになる。
b	飛ぶ tob·u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。 -タが-ダになる。
m	飲む nom·u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。 -タが-ダになる。
r	切る kir·u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)·u	カッ-タ	wをQ(促音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生 [ガクセー] (だ)
終 止 類	断定非過去	アカイ	シズカダ	学生ダ
	断定過去	アカカッタ	シズカダッタ	学生ダッタ
	推量	アカイラ	シズカダラ	学生ダラ
接 続 類	連体非過去	アカイ	シズカナ	《学生ノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカダッタ	学生ダッタ
	中止	アカクテ	シズカデ	学生デ
	仮定	アカキヤー アカケリヤー アカカッタラ	シズカナラ シズカダッタラ	学生ダッタラ 学生ナラ
派 生 類	否定	アカクナイ	シズカジャナイ	学生ジャナイ
	なる	アカクナル	シズカニナル	学生ニナル
	丁寧	アカイデス	シズカデス	学生デス
	のだ	アカイダ	シズカナナダ	学生ナナダ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」)と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型にはa類(「書く」・「居る」・「死ぬ」類)動詞、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形がある。融合によってア段拗音となることもある。「カク」(書く)の場合、カカ-N(kak·a-N)、カキ-タイ(kak·i-tai)、カク(kak·u)、カケ(kak·e)、カコー(kak·o-R)、カイ-タ(kai-ta)、

カキヤ-セン(kak·ja-seN)など。また、語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の動詞は、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ-ル(mi-ru)、仮定形ミ-レバ(mi-reba)、受身形・尊敬形ミ-ラレル(mi-rareru)、可能形ミ-レル(mi-reru)のほか、命令形ミ-リン(mi-riN)でも、ラ行で始まる接辞が付き、多段型のr語幹動詞に対応した形となる。この

点で共通語よりも r 語幹化が進んでいる。

不規則な活用をする動詞に「クル」(来る)と「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ (k-i-ta)、ク-ル (k-u-ru)、コイ (k-o-i) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段に、「スル」は、サ-レル (s-a-reru)、シ-タ (s-i-ta)、ス-ル (s-u-ru)、セ-ヨ (s-e-jo) などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の4段にわたる。「クル」「スル」ともに、命令形に「キリン」「コリン」、「シリ」と、多段型の r 語幹動詞に対応した形が現れる。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段型動詞は基幹ウ段、一段型動詞は基幹 (= 語幹) + ル、「来る」「する」はウ段基幹「ク」「ス」+ 「ル」となる。

- ・アシタ テガミ カクヨ。(明日手紙を書くよ。)
- ・タローワ モースグ クルヨ。(太郎はもうすぐ来るよ。)

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に、それぞれ「タ」を後接した形となる。

- ・キノー テガミ カイトヨ。(昨日手紙を書いたよ。)
- ・ソコワ キノー ソージシタヨ (そこは昨日掃除したよ。)

〈命令形〉

大きく分けて、ぞんざいな命令形とやさしい命令形の2種類がある。

ぞんざいな命令形は多段型動詞では基幹エ段形、一段型動詞では「基幹+ロ」、「来る」は「コイ」、「する」は「シロ」となる。ただし高年層は、一段型動詞で基幹に「ヨ」を後接させた形(「ミヨ」など)、「する」で「セヨ」を用いる。

やさしい命令形は、多段型動詞では基幹イ段形に、一段型動詞では基幹に、「来る」では「キ」に、「する」では「シ」に、それぞれ「ン」を後接する。ただし、一段型動詞、「来る」「する」には、基幹に「リン」を後接する形式もある。また、「来る」には「コリン」の形もあるが、この形式の使用は若年層に限

られる。

- ・カラダニ キオツケンヨ。(身体に気をつけなさいよ。)
- ・マツトレ (待っていなさい) (山口 1994)
- ・チョット コッチ {キン/キリン}。(ちょっとこっちに来なさい。)

〈禁止形〉

禁止形は断定非過去形に「ナ」を後接する。断定非過去形の末尾が「ル」の場合、撥音化することもある。

- ・ソナトコイ イクナ。(そんなところに行くな。)(山口 1995)
- ・ホカノ ヒトオ ジロジロ {ミルナ/ミンナ}。(他の人をじろじろ見るな。)
- ・ラクガキナンカ {スルナヨ/スンナヨ}。(落書きなんかするなよ。)

〈意志形〉

多段型動詞は基幹オ段長音形を用いる。一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に、「する」は「シ」に、それぞれ「ヨー」を付す形を用いる。

- ・イマカラ スーパーニ イコーカナ。(今からスーパーに行こうかな。)
- ・「さて、のどもうるおった。めしにしよう。」(浜松市富塚町「だいだらぼっち」)

〈勧誘形〉

勧誘には、意志形と同じ形を用いることができるほか、高年層は「マイ」を接続した形式も用いる。多段型動詞は基幹ア段に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に、「する」は「シ」に、それぞれ「マイ」を付す形を用いる。「マイ」を付した形は勧誘の意味のみで用いられ、否定推量などを表すことはない。

- ・「きょうは、お天気がいいで、奥山の半僧さままいりに行かまいか。」(今日はお天気がいいから、奥山の半僧さん参りに行こう。)(三ヶ日町、ガニとおにぎり)
- ・マー モー イーデ イッシュニ タバマイ。(まあもういいから一緒に食べよう)

〈推量形〉

推量形は断定非過去形に「ラ」を接続させる。過去推量形は断定過去形に「ラ」を接続させる。

- ・アシタ ナミガ シズカナラ フネワ デル

ら。(明日波が静かなら船は出たろう。)

- ・(出航予定時刻を過ぎて) モー ジカン スギ
テルカラ、フネワ デタラ。(もう時間は過
ぎているから、船は出ただろう。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形である。

- ・ジオ カク トキワ シセーオ ヨク シン
ト ダメダニ。(字を書くときは姿勢を良く
しないとだめだよ。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・ソナン イッタ ヒトジャナキャ ワカラ
ンジャン。(そんなの行った人じゃないとわ
からないじゃないか。)

〈中止形〉

多段型は基幹音便形に、一段型は基幹に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に、それぞれ「テ」を接続する。

- ・オトイテ コマツル ((財布を) 落として困
っている) (山口 1994)

〈仮定形〉

多段型では「カキヤ」などア段拗音形が、一段型では「ミリヤ」など「基幹+リヤ」が、「来る」「する」では「基幹ク・ス+リヤ」が用いられる。基幹に(レ)バを後接した形の縮約形と考えられ、(レ)バの形でも用いられることがある。「来る」は「コレバ」「コリヤ」の形もある。

また多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」は「キ」、「する」は「シ」に、それぞれ「タラ」を接続させた形でも用いられる。

- ・「とうげまで行きゃあ、あとはまた下がるだも
んでいいわ。」(峠まで行けば後はまた下がる
からいいよ。)(三ヶ日町、ガニとおにぎり)
- ・「いやいや、けっこうだ。おまえさんが元気に
なりゃ、それでけっこうだ。」(おまえさんが
元気になれば、それで結構だ。)(西部、かみ
なりさまのへそ)

〈否定形〉

非過去の否定形について、多段型動詞は基幹ア段に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に、「する」は「セ」に「ン」を後接する。

過去の否定形として、非過去否定形に「カッタ」

を付した形が用いられる(「カカンカッタ」「ミンカッタ」)。また、高年層は「ナンダ」を後接させる形も用いる。多段型動詞は基幹ア段に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」または「キ」に、「する」は「セ」または「シ」に、それぞれ「ナンダ」を後接する。

- ・あぐらをかくと、一里(約四キロ)四方が、
毛むくじゃらの足の下にめりこみ、立つと、
頭は雲の上につき出て、顔もようわからんか
ったと。(浜松市富塚町「だいだらぼっち」)
- ・モット チューイシテリヤ ケガワ シナン
ダネ。(もっと注意していれば怪我はしなか
ったね。)

形式を整理すると、以下の表の通りである。

動詞	非過去	過去
書く	カカン	カカナンダ カカンカッタ
見る	ミン	ミナンダ ミンカッタ
来る	コン	コナンダ コンカッタ
する	セン シン	セナンダ シナンダ センカッタ

なお否定中止形には、「ンデ」「ンクテ」も用いられる。否定仮定形としては、多段型動詞は基幹ア段に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に、「する」は「セ」に「ニヤー」を接続させる。

- ・サイキン ゼンゼン ジ カカンデ カンジ
ワスレチャッターヤ。(最近全然字を書か
ないから、漢字を忘れちゃったなあ。)
- ・マイニチ ソージ セニヤー スグニ ヨゴ
レチャウニ。(毎日掃除をしなければ、すぐ
に汚れてしまうよ。)

否定推量形は否定非過去形に「ラ」を接続する。過去の否定推量形は否定過去形に「ラ」を接続する。

- ・タローワ テガミナンカ カカンラ (太郎は
手紙なんか書かないだろう。)
- ・タローワ サカナ キライダデ キョーノ
キューシヨクモ タベンカッタラ。(太郎は

魚が嫌いだから、今日の給食も食べなかっただろう。)

高年層は否定の仮定表現として「ナンダラ」を後接させることもある。

- ・アシタ アメガ フラナンダラ フネワ デルネ。(明日雨が降らなかつたら、船は出るね。)

〈取り立て否定形〉

湖西市方言では取り立て否定形による否定の形が用いられることも多い。多段型動詞は基幹ア段拗音に「セン」、一段型動詞は基幹に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に「ヤセン」を接続させる。一段型動詞は基幹に、「来る」は「ク」に「リヤセン」を接続することもある。

- ・(どのお店で食べるか悩んでいる状況で) ヤキニクモ イクキガ {シヤセンシナー／センシナー}。
- ・(今日太郎が来るのかを尋ねられて) キヤセンヨ。

〈丁寧形〉

多段型動詞は基幹イ段に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に「マス」を後接させる。ただし、この地域に伝統的にある形式ではないようで、丁寧語を用いて話すときと共通語で話しているという感覚がある。

〈使役形〉

多段型動詞および「する」は基幹ア段に「ス」または「セル」を後接する。一段型動詞は基幹に、「来る」は「コ」に、「それぞれ「サス」または「サセル」を接続する。「ス」・「サス」は多段型動詞に準じた活用をし、「セル」「サセル」は一段型動詞に準じた活用をする。

- ・オムカエワ ハナコニ {イカセル／イカス}デネ。(お迎えは花子に行かせるからね。)

〈受身形〉

多段型および「する」では基幹ア段に「レル」を後接する。一段型では基幹に、「来る」では「コ」に「ラレル」を後接する。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ハタケノ キューリオ イノシシニ クワレ夕。(畑のきゅうりをいのししに食べられた。)

〈可能形〉

多段型動詞は基幹エ段に「ル」を後接する。一段型動詞は基幹、「来る」は「コ」に「レル」を後接する。「する」には「ル」を後接することはできず、デキルという補充形が用いられる。なお、多段型動詞のエ段形に「レル」を後接する形もある。一段型動詞・「来る」には基幹に「ラレル」を後接する形もあるが、共通語という感覚がある。いずれも一段型動詞に準じた活用をする。

- ・サンジマデニ ココニ コレル? (3時までここに来られる?)
- ・「わしゃあどうも、これじゃあとても行けれんよ。」(私はどうも、これじゃあとても行けないよ。)(三ヶ日町「ガニとおにぎり」)

〈尊敬形〉

「来る」には補充形の「ミエル」があるが、その他に伝統的な尊敬形はない。「オ〜ニナル」「レル」が用いられることはあるが、共通語の形式として認識されている。

- ・ニジニ オキヤクサン ミエルデ ハヤ カタツケテ。(2時にお客さんがいらっしゃるから部屋を片付けて)

〈継続形〉

多段型動詞は音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「キ」に「する」は「シ」に、それぞれ「テル」「トル」を後接する。「テル」形は一段型動詞に準じた活用、「トル」形は多段型動詞に準じた活用である。

- ・それでも、じいさまが村へ買い物に出るときだけは、ついていかず家でおとなしく待ってたそうな。(引佐郡引佐町「子ギツネとじいさま」)
- ・キョーワ イエデ ズット テレビ ミテタダヨ。(今日は家でずっとテレビを見ていたんだよ。)

「モ」「ワ」等の助詞で取り立てられるときは、「テ-助詞-イル」「テ-助詞-オル」の形で用いられるが、「テワ」が融合して「〜チャーイル」「〜チャーオル」の形になるときもある。

- ・サキヤウウッチャーオルガ、タバカーウッチャーオラン。(酒は売ってはいるが、たばこは売ってはいない。)(山口 1994)

〈希望形〉

多段型動詞は基幹イ段に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に、それぞれ「タイ」を後接する。「タイ」形は形容詞型の活用をする。

- ・アシタノ アサ、タマゴゴハン タバタイナ二。(明日の朝は卵ご飯を食べたいなあ。)

〈のだ形〉

のだ形は共通語の「の」にあたる準体助詞が見られず、断定非過去形にコピュラの「ダ」を後接する。ただし、これで文が終止するときには、「ヨ」「ネ」などの終助詞を伴うことが多い。また、ノダ推量形は、のだ形に「ラ」を後接する。のだ推量形で文が終止するときには終助詞を伴わないことが多い。

- ・遠州灘の波の音には、こんな話があるだよ。(遠州灘の波の音には、こんな話があるんだよ。)(浜松市入野町「海ぼうずと波の音」)
- ・むかしは、そんな話をして、夜、子どもが外で遊んだり、出歩いたりすることをいましめただよ。(昔はそんな話をして、夜子どもが外で遊んだり、出歩いたりすることをいましめたんだよ。)(周智郡森町「てんぐになった息子」)
- ・(落書きを見つけて)アノ コラガ カイタダラ。(あの子たちが書いたんだろう。)

のだ形・のだ推量形の対応を以下に示す。

	非過去	過去
のだ	カクダ	カイタダ
のだ推量	カクダラ	カイタダラ

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用は1型である。

〈断定非過去形〉

語幹に「イ」を付す。

- ・コトシワ イツモヨリ アツイネ。(今年はいつもより暑いね。)

〈断定過去形〉

動詞的な接尾辞「カッ」に「タ」を後接する。

- ・デモ キョネンモ スゴイ アツカッタニ。(でも昨年もすごく暑かったよ。)

〈推量形〉

推量形は断定非過去形に「ラ」を接続させる。過

去推量形は断定過去形に「ラ」を接続させる。

- ・コトシワ ヨクハレタデ、ミカンノ デキガイーラ。(今年はよく晴れたからみかんのできがいいだろう。)
- ・キョネンノ ミカンノ ホーガ アマカッタラ。(去年のみかんのほうが甘かっただろう。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形である。

- ・「よし、富士よりけっこうて高い山を、一晩でしあげるぞ。」(浜松市富塚町「いだらぼっち」)
- ・コトシノ ヨーニ アツイ トシャー ナイナー。(今年のように暑い年はないな。)(山口 1995)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・コトシノ ヨーニ アツカッタ トシワ ヒサシブリダネ。(今年のように暑かった年は久しぶりだね。)

〈中止形〉

語幹に「ク」を後接させ、「テ」を付す。

- ・アツクテ タマラン。(暑くてたまらない)(山口 1995)

〈仮定形〉

語幹に「ケリヤ」「ケレバ」が付く形を用いる。若年層は語幹に「キャ」を後接させることもある。また動詞と同様、音便形に「タラ」が付く形も用いられる。

- ・{アツケリヤ/アツカッタラ} センブーキマワシテ。(暑ければ扇風機を回して。)
- ・トマトガ アカキャー シューカクスルニ。(トマトが赤ければ収穫するよ。)
- ・ソナニ タカケリヤー カワンヨ。(そんなに高いなら、買わない。)

〈否定形〉

語幹に「ク」を後接し、形容詞「ナイ」を用いる。語幹に「クワ」が縮約したと考えられる「カ」を後接させ、形容詞「ナイ」を続けることもある。

- ・キョーワ アンマリ スズシクナイネ (山口 1995)
- ・キョーワ アンマリ アツカナカッタ (山口 1995)

〈なる形〉

語幹に「ク」を後接し、動詞「ナル」を用いる。

- ・アメン フルト キューニ サムクナルネ。
(雨が降ると急に寒くなるね。)

〈丁寧形〉

断定非過去形・断定過去形に「デス」を後接する。

ただし、動詞述語と同様、共通語という感覚がある。

〈のだ形〉

動詞と同様、準体助詞は現れず、非過去は断定非過去形に「ダ」、過去は断定過去形に「ダ」が接続する。動詞と同様、これで文が終止するとき、「ヨ」「ネ」などの終助詞を伴うことが多い。のだ推量形は上記ののだ形に「ラ」が接続する。

- ・コトシワ ヒデリガ オーカッタモンデ、ミカンガ アマイダネ。(今年は晴れの日が多かったから、みかんが甘いんだね。)
- ・キョネンワ ヒデリガ オーカッタモンデ、ミカンガ アマカッタダネ。(去年は晴れの日が多かったから、みかんが甘かったんだね。)
- ・キョネンワ ヒデリガ オーカッタモンデ、ミカンガ アマカッタダラ。(去年は晴れの日が多かったから、みかんが甘かったんだらう。)

【形容名詞述語・名詞述語】

〈断定非過去形〉

断定非過去形は形容名詞・名詞に「ダ」を付す。

- ・シンパイセンデモ ダイジョーブダ (心配しなくても大丈夫だ) (山口 1995)

〈断定過去形〉

動詞的な接尾辞「ダッ」に「タ」を後接する。

- ・キノー アノコラワ シズカダッタニ。(昨日あの子たちは静かだったよ。)

〈推量形〉

推量形は断定非過去形に「ラ」を接続させる。過去推量形は断定過去形に「ラ」を接続させる。

- ・シンパイセンデモ ダイジョーブダラ。(心配しなくても大丈夫だろう。)
- ・シンパイセンデモ ダイジョーブダッタラ。(心配しなくても大丈夫だっただろう。)
- ・キノー ソッチワ アメダッタラ？(昨日そ

っちは雨だったでしょう?)

〈連体非過去形〉

形容名詞には「ナ」、名詞には「ノ」を後接する。

- ・シンパイセンデモ ダイジョーブナ クライレンシューシタ。(心配しなくても大丈夫なくらい練習した。)
- ・アノ ホンノ オキバガ ワカラン。(あの本の置き場所がわからない)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・マダ ショーガクセー ダッタ トキノ コトダモンデ、オボエチャ オランヨ。(まだ小学生だったときのことだから、覚えていないよ。)

〈中止形〉

「デ」を後接する。

- ・キノーワ アノウチガ シズカデ、ホンガ ヨクヨメタ。(昨日はあの家が静かだったから、本がよく読めた。)
- ・アシタワ アメデ、アサツテガ ハレダツテ。(明日は雨で、明後日が晴れだつて。)

〈仮定形〉

「ナラ」を後接するか、動詞的な接尾辞「ダッ」に「タラ」を後接する。

- ・ソコガ ソンナニ {シズカナラ／シズカダッタラ} ワタシモ スンデミタイヤー。(そこがそんなに静かなら、私も住んでみたいなあ。)

〈否定形〉

「ジャ」に形容詞「ナイ」を後接する。

- ・アンマリ シズカジャ ナカッタニ。(あまり静かではなかったよ。)
- ・アリヤー ハナジャナイ。(あれは花ではない。)(山口 1995)

〈なる形〉

「ニ」を付し、動詞「ナル」が続く。

- ・チョット アヤシテヤッタラ シズカニ ナッタニ。(ちょっとあやしてやったら静かになったよ。)
- ・タロー オーキク ナッタラ ヤキューノ センシュニ ナルツテ イツタニ。(太郎は大きくなったら野球選手になるって言っ

ていたよ。)

〈丁寧形〉

丁寧形は「デス」を接続させる。ただし、動詞述語・形容詞述語と同様、共通語という感覚がある。

〈のだ形〉

非過去と過去でののだ形の有無が異なる。非過去ではのだ形にあたる形式はふつう用いられない。あえて使うなら「形容名詞・名詞+ナンダ」となる。過去では、「シズカダッタダ」など断定過去形に「ダ」を後接する。動詞・形容詞と同様、準体助詞は現れない。動詞・形容詞と同様、「ダ」で終止することは多くなく、「ネ」などの終助詞を後接することが多い。「ナンダ」を後接する形もあるが、共通語という感覚がある。

- ・タイフーガ スギチャッタデ シズカナンダネ。(台風が過ぎたから静かなんだね。)
- ・タイフーガ ソレタデ シズカダッタダネ。(台風がそれたから静かだったんだね。)

のだ推量形も上と同様で、非過去ののだ推量形はふつう使われない。過去ののだ推量形は断定過去形にダラを後接する。

- ・タイフーガ ソレタデ シズカダッタダラネ。(台風がそれたから静かだったんだろうね。)

用例出典

山口 (1994) : 山口幸洋 (1994) 「静岡県浜名郡新居町新居方言の аспекト」『方言資料叢刊』4、方言研究ゼミナール

山口 (1995) : 山口幸洋 (1995) 「静岡県浜名郡新居町新居方言の否定の表現」『方言資料叢刊』5、方言研究ゼミナール

静岡県むかし話研究会 (2004) 『読みがたり 静岡のむかし話』日本標準

参考文献

中條修 (1983) 「静岡県の方言」『講座方言学 6 中部地方の方言』国書刊行会

中田敏夫 (2002) 「I 総論・II 県内各地の方言」平山輝男 (他編) 『日本のことばシリーズ 22 静岡県のことば』明治書院

(森 勇太)